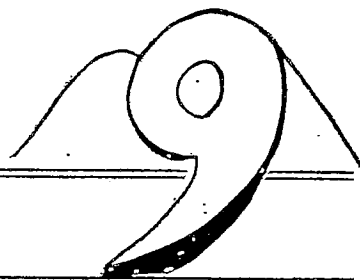


未来をひらく

竜爪山九条の会 会報

事務局 静岡市葵区古庄3-19-34 (五井卓 方)
電話 264-4918



2007年9月

すばらしい日本国憲法を守る 大きな輪をつくるために

さまざまなイベントを企画～世話人会

竜爪山九条の会第10回世話人会が8月23日(木)午後1時半から東下公民館で開かれ、10名が参加しました。世話人会では、賛同者を過半数に広げていくために、どのような宣伝をしていったら良いのか、どのようなイベントを開いていったら良いのか、などについて話し合われました。おもな内容は、

- ◇ 秋のイベントとして、映画会を開催する。——10月28日(日)
- ◇ 今年暮あたりに句会を開催する。 ◇ 戦争体験を集めた冊子をつくる。
- ◇ 1周年記念イベントとして、戦争とジャーナリズムに関する関研一さんの膨大な蔵書を閲覧する。
- ◇ 文化展、バーベキュー、誰でもできる宣伝行動、手づくりポスターなど。

ポスター・チラシの作製を検討～事務局会議

事務局会議は9月2日午前10時から五井宅で開かれ、7名が参加しました。会では世話人会で出された内容の具体化について話し合われ、とくに10月28日の映画会の時間、場所、上映映画を確定しました。また、さらに多くの人に竜爪山九条の会の存在を知ってもらい、憲法を守る世論を高めていくため、ポスターとチラシを作製していくことになり、具体的に検討していくことになりました。

「会」立ち上げから1年

この地域にも九条の会をつくろうと、昨年9月3日、リンク西奈で、呼びかけ人準備会が開かれて丸1年が経過しました。この1年で、九条の会の必要性は、ますます高まっています。

日本国憲法誕生の真相を知ろう！ 映画「日本の青空」

竜爪山九条の会では、映画「日本の青空」鑑賞を、夏のイベントとして位置づけて取り組んできました。8月11日～24日の2週間、サールナートホールで上映され、全体として2300人余が鑑賞しました。「日本の青空」をみた人たちからは、「押し付け憲法でないことがよくわかった」「子ども達にみせたい」などの感想が多くきかれました。竜爪山九条の会へ寄せられた感想を三つ紹介します。

感想

日本国憲法は戦勝国アメリカGHQの押し付け憲法であると思っていたが、全く真相は違っていた。憲法学者鈴木安蔵を中心とする民間の憲法研究会が作成した憲法草案によるものであり、GHQ案の手本になったという事実。政府高官が驚き反対したのも無理ないことである。

日本の青空は、日本全国の人に見て頂き、真相を知ってもらわなければならないと思う。

感想

『日本の青空』みてきました。感動しました。「男女平等」の条項、GHQのシロタさんのせりふには涙がこぼれました。constitution 映画の中で何度も出てくる単語。constitution＝憲法 4月22日の学習会の折、山本先生がおっしゃったこと。「constitution、日本語に直訳すれば、《枠組み》ということ。たとえば、アメリカの憲法には男女平等なんて、うたっていないですよ。なぜなら、それはあたりまえのことだから、文言で規定する必要がないのです」あの学習会は「国民投票法案」について学ぶものでしたが、この山本義彦先生のことばが、強烈に記憶に残ったのでした。

映画の中で、女性に参政権を与えなかったのは、陸軍が反対したからとっていました。女が参政権を持てば、戦争に反対するからと。鈴木安蔵夫人が、「自分の産んだ子を軍隊にやるなんて、女だったら誰だって反対に決まってる」と、言っていました。（正確な言い回しじゃないかも知れませんが）

それから、戦争条項。鈴木案では、空白であったこと。鈴木安蔵夫人の「空白は、空白のままがいいではありませんか」という言葉。印象に残った場面です。空白だからこそ、言葉で表現する以上に雄弁であること。そして、結果はあの9条に結実。映画が終わって、客席から拍手が起りました。

感想

私は今まで日本国憲法は押し付けられたものではないと思っていました。それは日本にもいくつかの草案があったし、何より女性が参政権を得た初めての普通選挙で選ばれた国会議員によって審議され、可決されたものだから。しかし私は「日本の青空」をみて、自分の観点から明治の自由民権運動が完全に抜け落ちていたことに気づかされました。自由民権運動はイギリスの市民革命、アメリカ合衆国独立宣言、フランス革命を支えた啓蒙思想をよりどころにしたもので、明治の時代に、憲法制定にむけて

さまざまな憲法草案がつくられていました。そうした伝統を、その後の軍国主義の中でも、激しい弾圧にも屈せず守り通した人々がいる。その一人が鈴木安蔵だった。

日本人とアメリカ人の良心が結集してつくられた日本国憲法は、平和、自由、民主主義といった、人類が長い間かかってつくり上げてきた、人類普遍の原則をめざす、人類普遍の憲法、世界に発信できるすばらしい憲法です。

「日本の青空」は、事実を一つ一つ丹念に積み重ねることによって憲法制定過程をあきらかにしていく、とても説得力のある映画で、みることによって、ほんとうに多くを学ぶことができました。私が一つ注目したことは、松本蒸治国務大臣の描き方です。占領という中で彼なりに日本を守ろうとした、そして最後に英語で自分の思いを主張する姿を映し出すなど、一人の人間として、丁寧に扱っていることです。日本国憲法制定過程にあって、とかく悪役として描かれてしまう松本蒸治に対するこの扱いに、私はとても好感をもちました。

日本国憲法を守りたいという人にも、そして変えた方がいいと思っている人にも、もっともっと大勢の人たちに、ぜひともみてもらいたい映画です。

日本国憲法の制定過程、かなり正確に記述～高校教科書

高校日本史の教科書としては圧倒的な発行部数をもつ「詳説日本史B」(山川出版社)では、日本国憲法の制定に関する脚注で、制定過程をかなり正確に記述しています。

① 高野岩三郎らによる民間の憲法研究会は、1945年12月に主権在民原則と立憲君主制をとった「憲法草案要綱」を発表し、GHQや日本政府にも提出していた。マッカーサー草案作成の中心となったGHQのスタッフは、欧米諸国の憲法やこの「憲法草案要綱」などを参考にしながら、類例のない先進的憲法をつくる意気込みで作業を進めた。

② GHQ草案がそのまま新憲法になったのではなく、政府案の作成や議会審議の過程で追加・修正がなされた。草案では国会は衆議院のみの一院制だったが、日本政府の強い希望で参議院を加えて二院制となった。また衆議院の修正段階では、芦田均の発案により、戦力不保持に関する第9条第2項に「前項の目的を達するため」との字句が加えられ、自衛のための軍隊保持にふくみを残した。

同教科書は2002年、文部科学省検定済み教科書です。

静岡時代の鈴木安蔵について、静岡新聞で紹介されました

静岡新聞は9月1日付け夕刊で、「憲法学者・鈴木安蔵しのぶ」と題する記事を掲載しました。鈴木安蔵は1951年から67年まで静岡大学で憲法学を教えました。その間、蓮永寺・旧陸軍墓地公園の横を谷津山にむかって入った沓谷2丁目に住んでいました。記事では、8月中旬、安蔵の長女鹿島理智子さん、孫の大久保直子さんが旧宅跡を訪れたことを紹介、理智子さん、直子さん、また“ご近所”の小林さんを通して、安蔵の人柄や思い出が語られています。

私たちは九条を守る輪を広げます

よびかけ人 138名
賛同者 219名
計 357名 (9月2日現在)

「竜爪山九条の会」ホームページをみる

ヤフーなど検索サイトで「竜爪山九条の会」と入力して、検索してください。(なお、「竜爪山九条の会」と入力した場合、検索できないようです。)お知らせや、掲示板、過去の会報など見ることができます。

お気軽に投稿を

「竜爪山九条の会」ホームページには掲示板があります。憲法9条に対する思い、平和に対する思い、戦争体験、映画「日本の青空」感想などなど、どしどし投稿してください。また、掲示板では、投稿された文章に対して、自分の感想や意見を書くこともできます。どうしてもパソコンはにが手という人は、原稿をファックスで送ってください。また、電話連絡いただければ、寺井さんが自宅まで原稿を取りにうかがいます。寺井さんが掲示板に原稿を入力してくれます。

⇒ ファックス・電話連絡先 261-8362 (寺井久美子)

竜爪山九条の会 秋のイベント

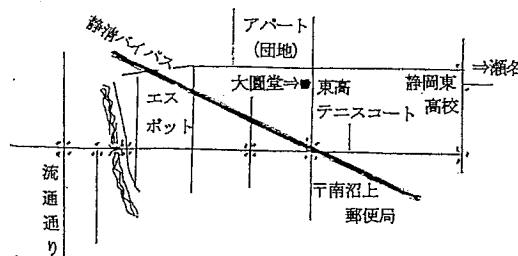
映画「日本国憲法」をみる

10月28日(日)午後1時30分～4時30分

会場 **大圓堂** (川合3丁目19)

安南禅寺さんの研修施設です。東高校の近くです。
交通手段のない方は配車します。

「日本の青空」に続いて、
日本国憲法に対する理解をさらに深めましょう!



次问世話人会 9月27日(木)午後1時30分～ 東下公民館